

# 岡 田 宮

—(宝永 4 年) 1707 年 貝原益軒書—

第 11 号

平成 2 年 12 月 吉日

発行 岡田宮社務所  
北九州市八幡西区岡田町 1 番地  
郵便番号 806

電話 621-1898

## 岡田神社二千六百五十年祭 記念事業奉祝祭



平成 2 年 10 月 19 日

## ご挨拶

拜啓 仲秋の候

此度は二千六百五十年祭記念事業にご奉賛いただき十月十九日には盛大な式年祭（竣工並びに秋まつり）を執り行う事が出来ました事厚く御礼申し上げます。

遠い私達の御先祖は氏神さまと共に生き生かされてきました。岡田神社の二千数百年の歴史の中で数千度の御造営がなされその度ごとに立派な御神殿拝殿へと高められてきました。

鎌倉時代の御成敗式目に

神は人の敬によって威を増し

人は神の徳によって運を添ふ

という言葉があります。即ち神さまは氏子崇敬者の方々がその高く尊き御神徳を仰ぎ尊びまつることによって益々その御神威を発揚され我々氏子崇敬者は神さまの御神徳をいたゞくことよってしあわせになることが出来るという意味のことばであります。

私たちの遠い御先祖の御霊が氏神さまに宿っています。そして鎮守の守り神さまとして私たち子孫の繁栄を見守って頂いております。

氏神さまのやしろが立派になることよって氏子の家々にも繁栄がおとづれるのでございます。どうぞ皆さま大神さまの御神徳をいたゞかれまして今後の弥栄を祈念し又心から深く感謝し御礼を申し上げます。有難うございました。

平成二年十月十九日

敬具

岡田神社宮司 波多野 直之  
奉賛会々々長代行 末 益 友之助  
総代会々々長

## 御祝辞

本日ここに当岡田神社の社殿改修工事の完成に伴う奉祝祭が斎行されるに当たりまして一言 御祝の御挨拶を申し上げます

御高承の通り 岡田神社は五十年毎の式年祭を迎え 昨年六月二十三日に二千六百五十年祭記念事業奉賛会が結成されました

そして 神社 氏子の皆様始め関係者の方々が数多くの協議 検討を重ねられましたその結果 主要な記念事業としましては 老朽化著しい社殿の全面的な改修を実施することが決定されました

かくして この記念事業を実施するための基金として氏子の皆様そして多くの崇敬者の皆様から貴重な浄財が寄せられ 工事も順調に推移し 本日 竣工の運びとなりましたことは誠に喜ばしく衷心よりお慶び申し上げます

申す迄もなく 当神社は 古事記 日本書記等にも記載されている由緒深い神社でございます 過去に幾度か 戦乱 争乱に巻き込まれ 社殿の一部が焼失したことがあったと伺っておりますが その時々との関係者の不屈の御努力により 修復 保持されてきて御神威は 衰えることもなく 益々御神徳は 広まり 多くの人々に崇敬されてきました

このようなことから 今後も益々の御神徳の高揚をはかり 神社と氏子 崇敬者との繋がりを強め 郷土の氏神様としてお護りしいかなければなりません

斯様な事情を考慮されまして 関係の方々がお心を一にして 本事業を完遂されましたことは 日頃より御加護をいただいております 私共 地元の企業におきましても御同慶に堪えません

年々 崇敬者 参拝者の方が増え 例大祭始め諸行事の際に御不便をおかけしていたことがあったと伺っておりますが この度の改修工事によりまして 拝殿が広くなりまた雨漏りも修復されましたので 多くの方々が喜びになられることと存じ上げます

大事業を完遂した今 岡田神社の新たな歴史のページが開かれました 今後 益々御神威が高まり そして 一層の御神徳が広まっていきますことを祈念いたしまして 簡単ではございますが 岡田神社 二千六百五十年祭記念事業完了の御祝いの御挨拶とさせていただきます

平成二年十月十九日

三菱化成株式会社黒崎工場  
常務取締役 高橋 敏郎  
工場長







渡邊正廣 渡邊茂廣 渡邊文喜 和文江 力丸隆一 ラン美容室 米倉修 米岡一男 吉村正人 吉村清人 吉村卯之吉 吉原誠 吉武マサ子 吉武輝大 吉田マシミ 吉田正敏 吉田宏和 吉田博 吉田ナツエ 吉田俊 吉田公彦 吉田組 吉川フミ子 吉岡己子 横尾篤己 横尾登巨 山本商會 山本良三 山本ミネ 山本正継 山本岱輔 山村整骨院 山見坂桂子 山部精吹 山野藤美 大和禮誠 山手誠治

### 町内会有志

別当町第一町会有志  
小鷺田町有志  
西神原第二町内会有志  
京良城町有志  
筒井第二町会有志  
田町2・1・2町会有志  
熊手三丁目有志  
小鷺田公園团地有志  
茶壳第一町会有志  
岸の浦2丁目町内会有志  
幸神四丁目有志  
東神原町会有志  
小鷺田团地有志  
熊手三丁目町会有志  
黒崎二丁目東熊手二丁目東自治有志  
茶壳团地第一町会有志  
茶壳团地第二町会有志  
舟町第一町会有志  
菅原町会有志  
小鷺田東团地有志  
大畑二町会九棟有志  
大畑二町会十二棟有志  
大畑二町会十棟有志  
熊手一丁目西町会有志  
幸神四丁目二組有志  
幸神四丁目二組有志  
茶壳市営町内会有志  
茶壳第二町会有志

※誠におそれいますが、ご方名の誤字・脱字・金額のまちがいがありましたら、ご連絡下さい。

## 岡田宮と厄除

やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、「人生の折り目」だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましょう。

北九州の古社である当岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。

皆様方おそらいで御参拝下さいませ様御案内申し上げます。

### 平成三年の厄年

厄年(男)	
二十四才 前厄	昭和四十三年生
二十五才 大厄	四十二年生
二十六才 後厄	四十一年生
四十一才 前厄	二十六年生
四十二才 大厄	二十五年生
四十三才 後厄	二十四年生
六十才 前厄	七年生
六十一才 大厄	六年生
六十二才 後厄	五年生

#### 厄年(女)

十八才 前厄	昭和四十九年生
十九才 大厄	四十八年生
二十才 後厄	四十七年生
三十二才 前厄	三十五年生
三十三才 大厄	三十四年生
三十四才 後厄	三十三年生
三十六才 前厄	三十一年生
三十七才 大厄	三十年生
三十八才 後厄	二十九年生

※年齢はかぞえ年です。

### 厄除大祭 二月節分日

# 年末年始の行事案内

## ●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料（お思召し）を共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

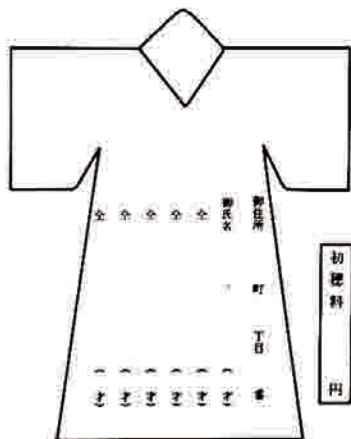
大祓は其の始末古く、昔より六月、十二月の終りに兩度行われた儀式で、お互いが知らず知らず犯した罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い精神的行事であります。其れがいつか自己反省の日で、心穢を一新して明日への力強い出発の日でもあります。即ち、年二回の大祓祭に該当するもので人の心に積った穢を消滅するのが大祓であります。

## 岡田宮大祓式

七月二十九日午後六時  
十二月三十一日午後十二時

当日の式に事務出席の方々のため形代としてこの形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料（お思召し）を共に袋に納めて十二月三十一日（七月十九日）までに町内の神社総代か袋は当社にお届け下さい。なお、この事務のあった方にはおさらが提供のため大祓を召下下さい。

岡田宮社務所 電話 二一八九八



形代(裏)

形代(表)

## ●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事、午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。

## ●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

## ●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

## ●どんど焼祭 一月十五日



(1月15日 どんど焼まつり)

古くなった、縄、門松等を焼納する神事。地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

## ●厄除大祭 二月節分日

厄年の方は是非ご参拝下さい。

# 神社なぜ問答

(その10)



問 伊勢の神宮その他で出している御神札のことを「大麻」といいますがなぜ「大麻」というのかお尋ねします。

答 皆さんが神社にお詣りして昇殿参拝したり、お子さんの初宮参りや七五三参りにご一緒されたり、また神社の例祭などに参列された時に、お祓いを受けられたことがあると思います。神社の御社頭での神事に限らず、地鎮祭なども含め、神事、祭儀の時はいつもお祓い（修祓）があります。

この時、神職が祓詞（ハラエコトバ）を唱えたあと、神の枝（あるいは木製の串）に紙垂と麻をつけたものをもって、左右左と振ってお祓いの作法をします。この祓えの具を「大麻」（オオヌサ）と称します。（祓麻ハラエヌサ、祓串ハラエグシということもあります）

さて、中世以来近世（江戸時代）まで、伊勢の神宮には「御師」と呼ばれる神職の人たちがおりました。この人たちは伊勢の地を出て全国に神宮の御神徳を広めて歩きました。当時の神道教化の最先端にいた人々といえましょう。御師は崇敬者を檀那と呼び、毎年一軒づつ訪問して廻りましたが、その折には、檀那のために千度祓いとか万度祓いを修め御祈願をこめたしるしとして、祓串を納めた箱を持って来ました。

これがいわゆる「お祓い箱」です。

また、これとともに小さな祓串を剣先形に紙で包んだ「剣先祓い」も広く頒布されました。これは「お祓い大麻」とか「お祓いさん」とも呼ばれ、今日の神宮大麻の原形となりました。

明治時代になり、明治天皇の思召しにより、全国に大麻が頒布されるようになり、ほぼ現在の形となりました。ですから、神宮の御神札を「大麻」と呼ぶのは、それが本来は、御師が、大祓を修したしるしの祓串であったからです。

ところで、これをオオヌサと呼ばずにタイマと音読みにしていますが、伊勢神道では、

例えば度会延佳をワタライノエンカと人の名前も音読みするように、しばしば神道用語も音読みする習慣があります。こうした古例によって、タイマと呼ばれているものと思われる。神宮以外の神社の御神札を大麻と称することもありますが、この神宮の例に倣った呼び方です。

## 郷土地名考 ⑪

十三塚 南王子町一番地。昔は一三の塚が南北に並んでいたという。十三塚の地名は全国に分布、近くでは水巻町猪熊にもあるが、県内で現存するのは小倉南区「堀越の十三塚」くらいである。十三塚は多くの場合伝承を伴っているが委細は不明。室町〜江戸期に盛んであった十三仏信仰とも関係があるかもしれない。十三仏は大日如来・不動明王・薬師如来・釈迦如来・観世音菩薩・文殊菩薩・勢至菩薩・普賢菩薩・阿弥陀如来・地藏菩薩・阿閃如来・弥勒菩薩・虚空蔵菩薩である。別当山遺跡 八幡工業高校の前の別当町にある。正確には大字市瀬に属する。小規模な中世の山城（砦）の跡で、麻生氏と関係があっ

たのではないかと考えられる。

帆柱四国霊場 帆柱四国は四国八十八ヶ所に倣い、明治三一年七月に創設された札打霊場である。一番鳴水釈迦堂に始まり、八八番山寺虚空蔵菩薩に終る。黒崎―上本町―枝光―戸畑区―七条―河内―田代―畑―香月―上津―役―陣原―貞元―山寺と回る。番外共で二二〇数ヶ所の札所である。八八番札所は御手洗公園の一角、御手洗清水の上にある。札所としての本尊は薬師如来であるが、これは四国八十八番医王山大窪寺の本尊が薬師如来であるため、堂の本尊は虚空蔵菩薩である。在来の寺堂を四国八十八ヶ所に擬しているため、札所としての本尊と実際の本尊は殆ど一致しない。

### 編集後記

●五十年に一度のご改築がやっと終わりました。ご奉賛ありがとうございました。

●好評の「神社なせなせ問答」皆様のたくさ  
んのおたよりをお待ちしています。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。

●一日、十五日には神社に参りましょう。